



全国大会も始まりました。

例年のような暑い夏ではなく、北海道は曇りや雨の天気が多いです。8月15日より帯広市を中心に始まったU15は、雨続きのため副審の走路は芝生の色が変わってしまったくらいです。このU15は全国各地域からの2級審判員の研修にも当たっています。また女子1級、北海道内の2級審判員や3級審判員によって予選リーグを、その後は道内の2級審判員も副審などに入りますが1級審判員が主に主審を担当していきます。また、審判指導者も1級インストラクターが務め、直接指導を受けられます。北海道にしながら全国的なレベルの研修会があり、また日本のトップの審判員と審判活動ができるなど参加された審判員もよい刺激になっていることと思います。

競技規則の改定は全国大会では適用されています。下記に、新しい競技規則の改定での競技規則テストを記しますのでチャレンジしてください。

2. 第12条に関して、各設問に答えなさい。

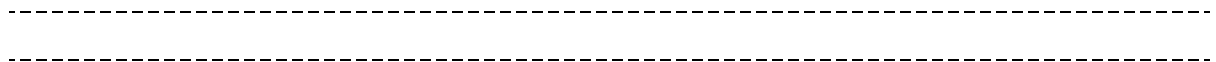
(1) 今回の競技規則の改正で、直接フリーキックとなる項目（ファウル）に変更点があります。2つあげなさい。（×4点、8点）



(2) 得点、または、決定的な得点の機会の阻止について。「競技者が自分のペナルティーエリア内で相手競技者に対して反則を犯し、相手競技者の決定的な得点の機会の阻止し、主審がペナルティーキックを与えた場合、反則を犯した競技者は、次の場合を除き警告されます」とありますが、次の場合とはどのような場合ですか（退場となるケース）。

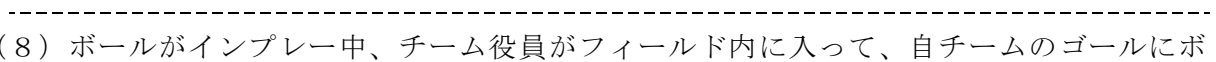


(3) ボールがインプレー中、競技者がプレーの一環でフィールドを離れ、他の競技者に対して反則を犯した場合、プレーの再開はどのようになりますか。（4点）

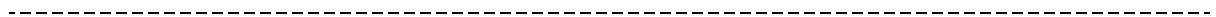


3. それぞれの状況において、主審はどのように処置しますか。（×5点 40点）

(7) 主審は、明らかな得点機会と判断し、2つ目の警告となる反則であったがアドバンテージを適用した。しかし、得点とはならず、ボールインプレーが続きその競技者がボールをプレーした。



(8) ボールがインプレー中、チーム役員がフィールド内に入って、自チームのゴールにボールが入るのを阻止した。





皆様、日頃より大変お世話になっております。十勝地区所属の鈴木悠次郎です。7月27日から広島県にて開催されました全国高校総体に、同じく十勝地区所属の土田浩貴さんとともに、北海道からの研修審判員として参加させていただきました。このような全国研修会に参加させていただき、本当に感謝しております。まだまだ未熟な審判員ではありますが、今回の研修会で得たものをこれからの審判活動に活かしていきたいと思っております。部分的ではありますが、今回の研修会での内容を報告させていただきます。

1. 研修会のテーマ：「動きとポジショニング」

2. 研修会の内容

現代のサッカーは、「パスの本数を減らし、時間をかけずにスピーディーにゴールへ」というのが主流になってきている。そのため、審判員も対角線式審判法を意識しながらも、より近くでの確に見極めるためによりよい動きだしから、選手の邪魔にならない、かつ説得力あるポジショニングをとることが求められている。そこで、意識するべきものとして、

①Transition (攻守の切り替え) ②Acceleration (加速) ③Approach (寄せる) ④Ascertain (見極め) があげられた。そして、この4つを効果的に発揮するためにも「いつ・何を見る」→「予期予測」がとても重要であることを確認した。※見ていない (見るタイミングが悪い) と予期予測もできず、攻守の切り替えや加速、よせる、見極めはできない。

3. プラクティカルトレーニング

①PK に関する違反 (競技規則の改正点など) ②オフサイド③奪われてからの切り替え (カウンター) をグループに分かれて実施。特に、PK では GK の違反に対する警告を確認。そして、カウンターをうけたときのレフリーのポジショニングと「何をいつ見る」のかを確認。さらに副審との協力 (副審もいつ・何をみるかがとても大切) も確認した。

4. 名木さん (PAR) ・廣嶋インストラクターからの助言 (副審の役割)

○副審の表現力を高めるべき。試合の雰囲気づくり。(フラッグテクニックやゴールインのあとのリアクションなど)

○オフサイドラインをキープすることが基本。しかし、タッチジャッジやライン際 (自分の近く) での判定のときには、争点が見えるようにラインからずれることも必要。ただし、FW と DF の位置関係は把握しておかなければいけない。

○タッチライン際での攻防では、副審もしっかりと見る。その見るタイミングがとても重要。

たくさんの助言や講義を聞くことができました。他地域の研修審判員との交流もでき、刺激となりました。今後の審判活動に活かしていきたいと思っております。

<競技規則回答>

2 (1) ●タックルする、または、挑む(挑むが追加された) ●身体的接触によって相手競技者を妨げる(が追加された) ..

(2) ●相手競技者を押さえる、引っぱる、または押す反則の場合 ..

●反則を犯した競技者がボールをプレーしようとしていない、またはボールに挑む可能性がない場合 ..

●反則がフィールド上のどこであつてもレッドカードで罰せられるものである場合 ..

(3) 反則が起きたところから最も近い境界線上から行うフリーキックでプレーは再開される。直接フリーキックの対象となる反則が起こったとき、フリーキックの位置がペナルティエリアの境界線上であれば PK が与えられる。 ..

3、(7) ..プレーを停止し、その競技者を退場させる。ボールのあつた位置から相手チームの間接フリーキックで再開。 ..

(8) ..プレーを停止し、チーム役員を退席させる。相手チームに PK を与える。 ..